

出席データ集計プログラムS2019 利用者説明書 (Ver.01)

- 1. はじめに
- 2. 機能と出席データについて
 - 2. 1 主な機能
 - 2. 2 出席データ

3. 動作環境の設定法

- 4. 操作法と実行手順
 - 4. 1 集計データの準備
 - 4. 2 フォルダ「出席集計」への移動
 - 4. 3 プログラムの実行手順
 - (1) プログラム起動
 - (2) 入力ファイルの確認 (処理 1)
 - (3) 出席データファイルごとのデータの確認 (処理 2)
 - (4) 集計結果の表示 (処理 3)
 - (5) 集計結果ファイルと報告書の作成 (処理 4)
 - (6) プログラムの終了

5. 各種報告書の説明

- (1) 集計結果.csv の説明
- (2) 集計報告書.txt の説明

6. 備考

補足説明 1 : 圧縮ファイルの解凍法について
補足説明 2 : コマンドプロンプトの起動法について
補足説明 3 : コマンドプロンプト起動画面の表示色の変更法について

1. はじめに

出席データ集計プログラム S2019 をご利用いただきありがとうございます。
この説明書では、情報処理センターでサービスされている「講義支援システム Wingnet」で収集した出席データを集計するためのプログラムの動作環境や操作方法などについて説明します。なお、この出席データ集計プログラム S2019 は、基本ソフト Windows で動作します（インストールなどの操作は必要ありません）。

2. 機能と出席データについて

2.1 主な機能

- (1) 出席データをもとに学生ごとの出席状況（出席・欠席）と出席合計数を求める。
- (2) 集計できる出席データ数は最大 20 個までとする。
- (3) 学生数は最大 200 人までとする。
- (4) 処理状況を詳細に表示する。
- (5) ファイル「集計結果.csv」に集計結果を作成する。
- (6) ファイル「集計報告書.txt」に処理の状況を作成する（上記（4）と同じ）。
- (7) 集計対象の出席データが「講義支援システム Wingnet」で収集した出席データの形式以外の場合には、警告メッセージを表示して処理を終了する。

2.2 出席データ

「講義支援システム Wingnet」で出席データを保存する場合、つぎの 2 種類を選択することができます。

- ・「保存」：指定したドライブやフォルダなどに保存する
- ・「メール」：現在ログインしている ID に電子メールの添付として転送する。

このような 2 つの方法で出席データを入手することができますが、本プログラムでは「保存」操作によって保存された出席データのみを対象としますので、ご注意ください。

（理由）メールで送られてくる出席データのファイル名はすべて「出席者リスト.csv」と同じ名前となり識別することができないためです。

出席データのファイル名の形式は、出席者 mmddhhmm.csv で、mmddhhmm は出席データを収集した mm（月）dd（日）hh（時）mm（分）を示します。

3. 動作環境の設定法

ここでは、このプログラムを情報処理センターの個人用ドライブ(Z:)で実行する場合の動作環境を構築する方法などについて説明します。

なお、このプログラムは 2019 年 3 月まで動いていた出席データ集計プログラムと違い Windows で動作します。

手順 1 : 作業用のフォルダを作る

まず、情報処理センターのホームページ内【サービス紹介～サービス一覧（教職員用）～講義支援（教職員用）】の「出席データ集計プログラム S2019」(syuseki_syukei_S2019.zip) に記載されている、出席データ集計プログラム S2019 をダウンロードしておきます。

つぎに

- (1) Z ドライブにフォルダ「出席集計」を作成します。
この、フォルダ名は任意に設定することができますが、本説明書では、「出席集計」と設定したものとします。
- (2) 上記 (1) で作成してフォルダ「出席集計」に情報処理センターのホームページからダウンロードした「syuseki_syukei_S2019.zip」をコピーします。

手順 2 : syuseki_syukei_S2019.zip ファイルを解凍する

圧縮されたファイルを解凍するには、(1)圧縮されたファイルをダブルクリックする方法と(2)圧縮されたファイルを右クリックする方法があります。

この資料では、前者のダブルクリックする方法を用いて解凍します。なお、後者の方法については、「補足説明 1 : 圧縮ファイルの解凍法について」を参照してください。

ダウンロードした「syuseki_syukei_S2019.zip」をダブルクリックすると、自動的に解凍されます。その結果図 1 に示すように、syuseki_syukei_S2019.zip の配下に、つぎの 3 つのファイルが作成されます。

- ①利用者説明書（この資料）
- ②フォルダ「ORGdata」（集計する出席データを登録する）
- ③Syuseki.exe （このプログラムの実行形式）

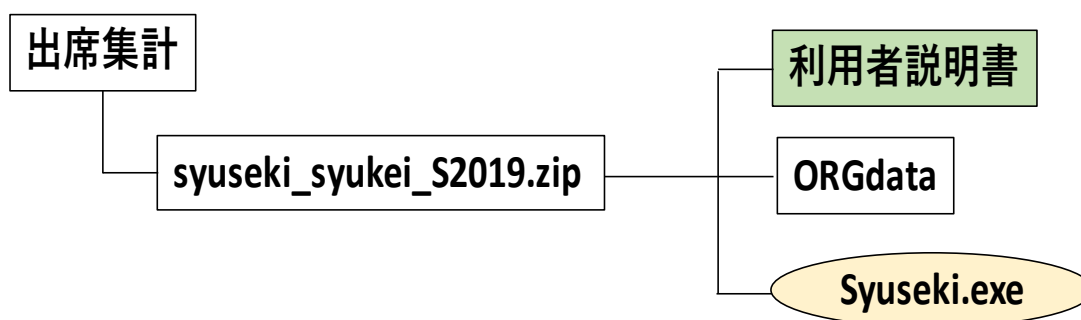


図 1. syuseki_syukei_S2019.zip 解凍後構成

手順3：最終ファイル構成の作成

図1の状態でのよいのですが、より操作をしやすいように、図2に示すように解凍後に作成された3つのファイルなどをフォルダ「出席集計」の配下にコピー（移動でも可）してください。

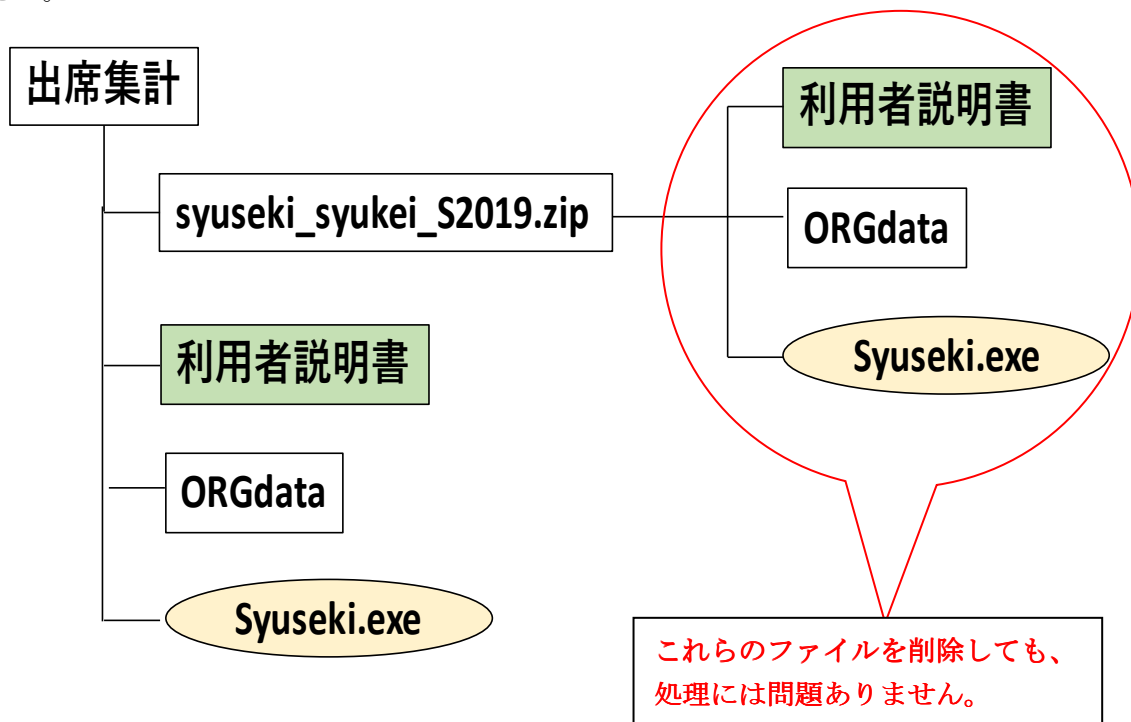


図2．最終ファイル構成

4. 操作法と実行手順

この出席データ集計プログラム S2019 は、さきほど説明したように基本ソフト Windows で動作します。

実際には、Windows の「コマンドプロンプト」上で動作させることになります。この「コマンドプロンプト」を起動させるためには、Windows システムツールから「コマンドプロンプト」を選択することになります。この一連の操作法については、「**補足説明 2 : コマンドプロンプトの起動法について**」を参照してください。

コマンドプロンプトが起動されると、図 3 のような画面が起動されます。

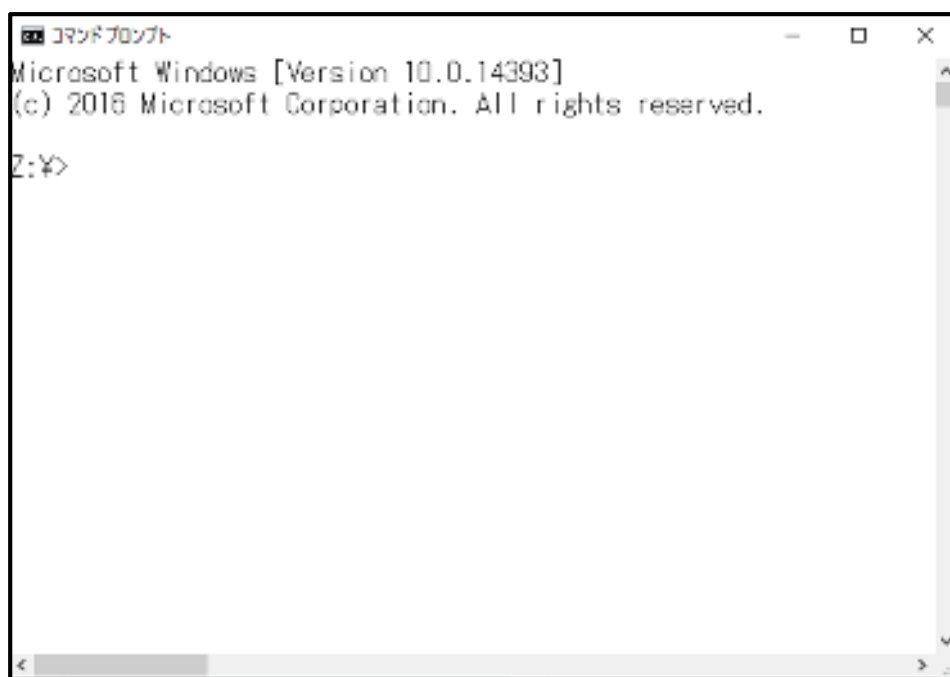


図 3. コマンドプロンプトの起動画面

なお、起動時には、コマンドプロンプトの画面の表示色（背景が黒色、文字が白色）となっています。そこで、図 3 のように、背景を白色、文字を黒色に変更する方法については、「**補足説明 3 : コマンドプロンプト起動画面の表示色の変更法について**」を参照してください。

4. 1 集計データの準備

出席データ集計プログラム S2019 を実行する事前の作業として、フォルダ「出席集計」配下のフォルダ「ORGdata」に、集計の対象となる出席データをコピーしてください。

(注意)

このフォルダ「ORGdata」にはファイル名「注意ここに集計対象の出席データをセットしてください.txt」がすでに登録されています。

このファイルには、フォルダ「ORGdata」の目的などが説明されていますので、お読みください。なお、このファイルを削除しなくても集計処理には問題はありません（必要ない場合には、削除してください）。

4. 2 フォルダ「出席集計」への移動

図4に示すコマンドプロンプト起動画面で、つぎのコマンドを入力してください。

(1) 「Z:\>」のつぎに、

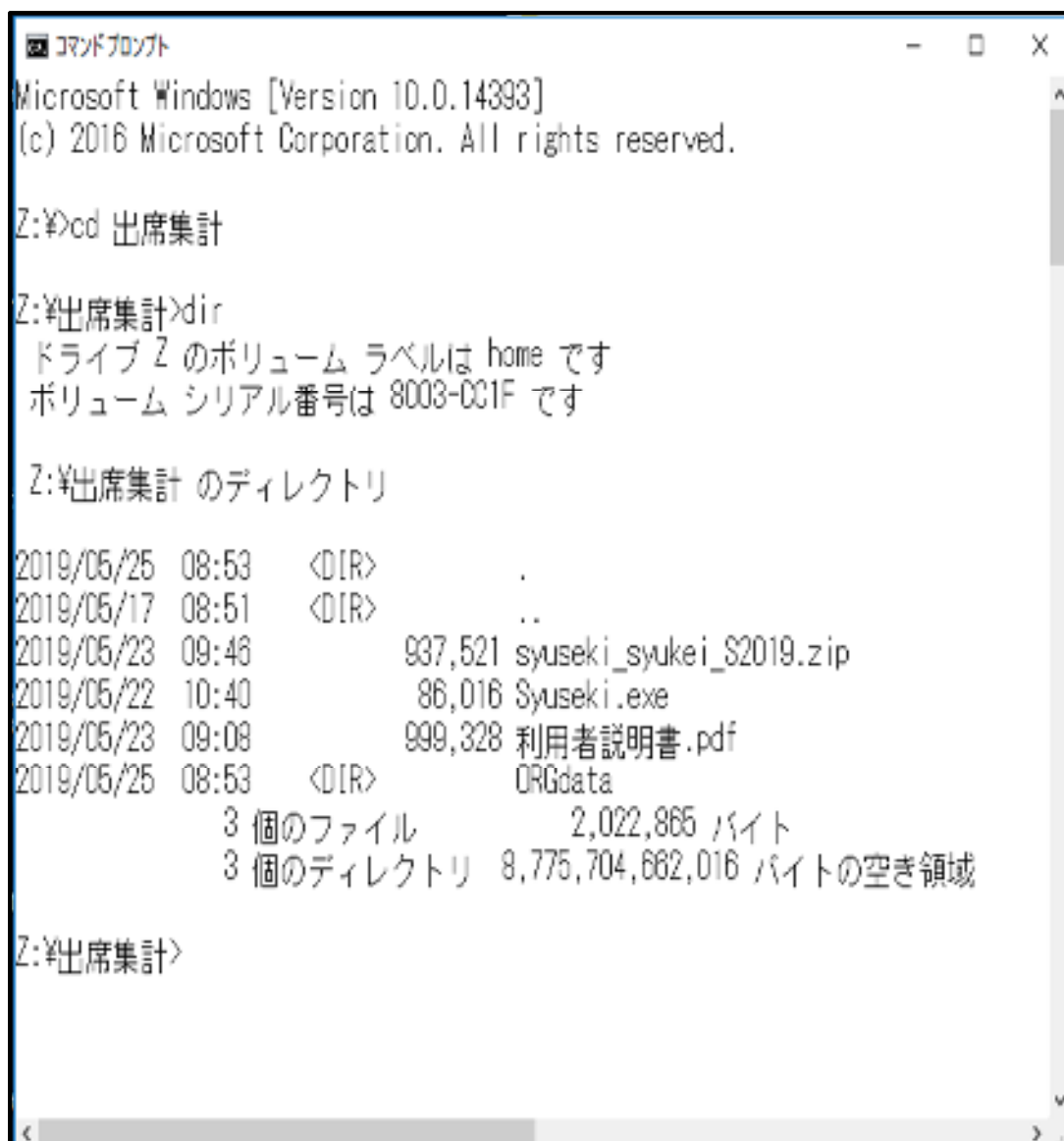
「cd 出席集計」と入力します。

(注意：cd は半角文字、出席集計は全角文字、は半角の空白)。



図4. フォルダ「出席集計」に移動

- (2) 正しく上記の操作が完了したかを確認するために、
「Z:¥出席集計>」のつぎに
dir と入力します。図5のように表示されれば、実行の準備が終了したことになります。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Z:¥>cd 出席集計

Z:¥出席集計>dir
ドライブ Z のボリューム ラベルは home です
ボリューム シリアル番号は 8003-0C1F です

Z:¥出席集計 のディレクトリ

2019/05/25  08:53    <DIR>          .
2019/05/17  08:51    <DIR>          ..
2019/05/23  09:46             937,521 syuseki_syukei_S2019.zip
2019/05/22  10:40             86,016 Syuseki.exe
2019/05/23  09:08             999,328 利用者説明書.pdf
2019/05/25  08:53    <DIR>          ORGdata
               3 個のファイル             2,022,865 バイト
               3 個のディレクトリ  8,775,704,662,016 バイトの空き領域

Z:¥出席集計>
```

図5. フォルダ「出席集計」の確認

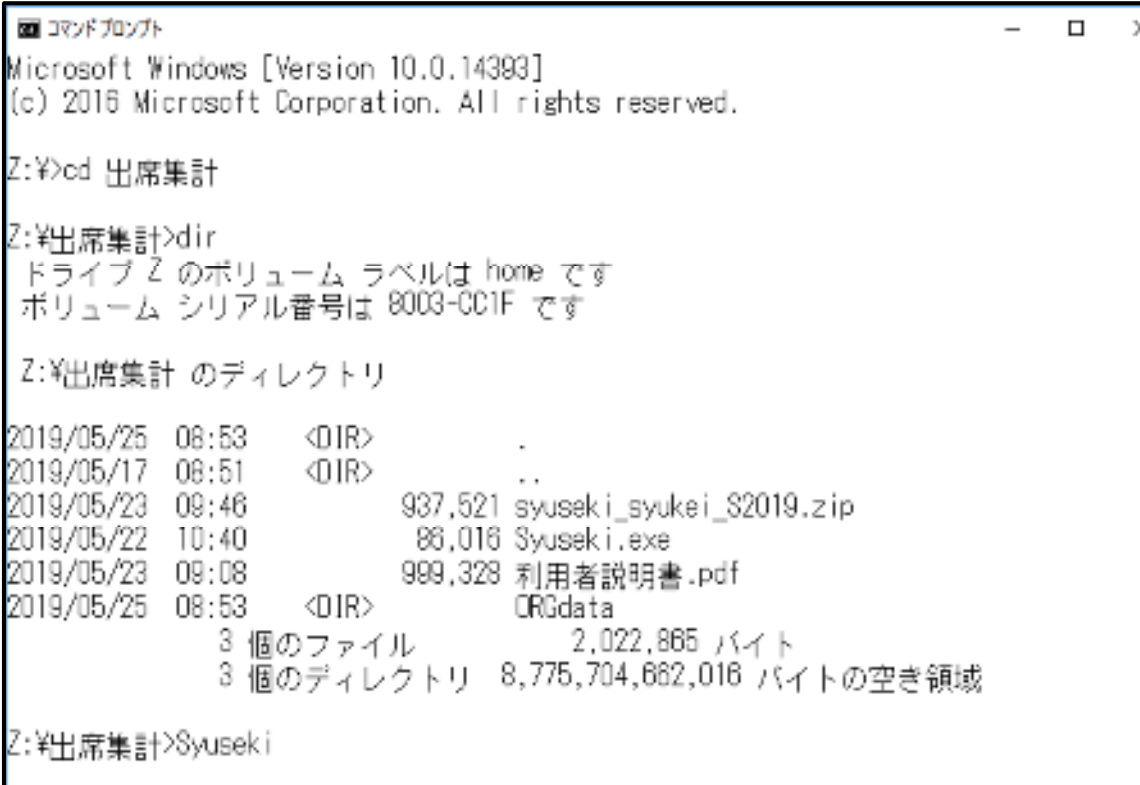
4. 3 プログラムの実行手順

これ以降の説明には、4つの出席データを対象にして、具体的に説明していきます。
対象出席データはつぎの4つで、登録学生数は30名（学生番号は9000001から9000030）とします。

- ①ファイル名：出席者 04010910.csv（4月1日9時10分に収集）
（教員1名ログイン状態）
- ②ファイル名：出席者 04020910.csv（4月2日9時10分に収集（講義開始時））
- ③ファイル名：出席者 04021005.csv（4月2日10時5分に収集（講義終了時））
- ④ファイル名：出席者 04030915.csv（4月3日9時15分に収集）

(1) プログラムの起動

図6に示すように、「Z:¥出席集計>」にSyuseki と入力してください。これでプログラムを起動することができます。



```

コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Z:¥>cd 出席集計

Z:¥出席集計>dir
ドライブ Z のボリューム ラベルは home です
ボリューム シリアル番号は 8003-CC1F です

Z:¥出席集計 のディレクトリ

2019/05/25  08:53    <DIR>          .
2019/05/17  08:51    <DIR>          ..
2019/05/23  09:46             937,521 syuseki_syukei_S2019.zip
2019/05/22  10:40             86,016 Syuseki.exe
2019/05/23  09:08             999,328 利用者説明書.pdf
2019/05/25  08:53    <DIR>          ORGdata
                3 個のファイル          2,022,865 バイト
                3 個のディレクトリ 8,775,704,682,016 バイトの空き領域

Z:¥出席集計>Syuseki
  
```

図6. プログラムの起動法

(2) 入力ファイルの確認(処理1)

上記(1)に引き続き自動的に入力ファイルの確認処理が実行されます。

この処理では、フォルダ「ORGdata」に登録されている出席データファイルのファイル名の形式や各レコードの形式などを詳細に確認します。

① ファイル形式などが正常の場合

```

Z:\¥出席集計>Syuseki

-----
情報処理センター出席データ集計プログラム    令和元年5月 Ver 1.0
-----

処理月日：2019年05月14日 (13時14分51秒)

処理1：入力ファイルの確認
-----

( 1)出席者04010810.csv
( 2)出席者04020810.csv
( 3)出席者04021005.csv
( 4)出席者04030815.csv
    【確認終了】 入力ファイル数は 4 です。
  
```

② ファイル形式などに異なっている場合

```

Z:\¥出席集計>Syuseki

-----
情報処理センター出席データ集計プログラム    令和元年5月 Ver 1.0
-----

処理月日：2019年05月21日 (12時18分56秒)

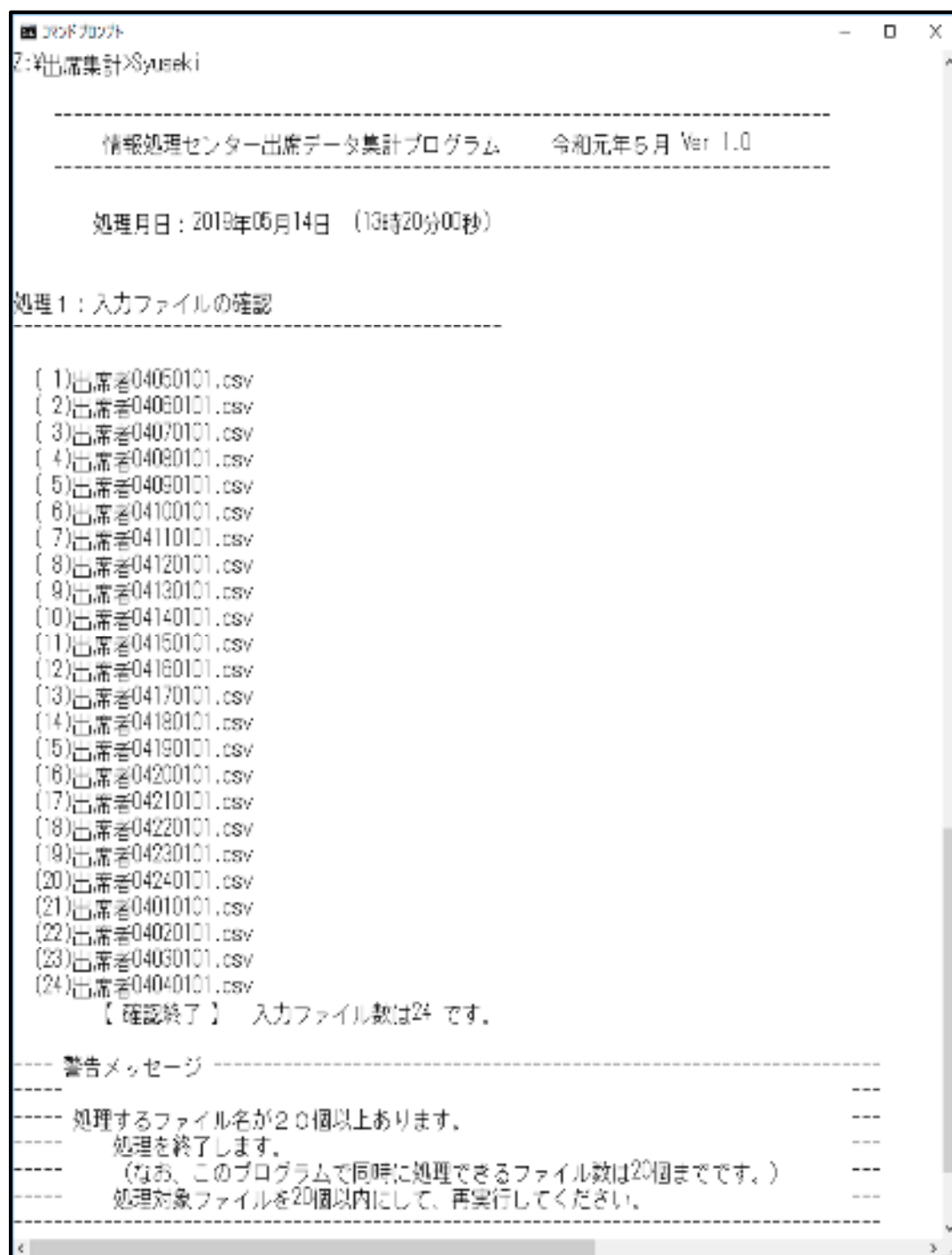
処理1：入力ファイルの確認
-----

( 1)講義出席04240907.csv
    (注意) ファイル名の形式が違います。

( 2)出席者04160917.csv
( 3)出席者04151343.csv
( 4)出席者04230807.csv
    【確認終了】 入力ファイル数は 4 です。

----- 警告メッセージ -----
-----
ファイル名が処理対象外のファイルが 1個あります。
処理を終了します。
-----
処理対象ファイルを確認して、再実行してください。
-----
  
```

③集計対象の出席データが 20 個を超えた場合



(3) 出席データファイルごとのデータの確認(処理2)

上記(2)の処理が終了すると、データ内容を確認する処理が実行されます。

ここでは、入力する出席データファイルの内容を詳細に解析して、その結果を表示します。
表示する項目は、つぎの4項目です。

- ・ 出席データファイル名
- ・ 入力データ数
- ・ 学生数 (利用者 ID 項目が S で始まる 7 桁の番号)
- ・ 学生以外の数 (利用者 ID 項目が S 以外で始まる 7 桁の番号)

処理2：ファイルごとの入力データの確認

```

(1)出席者 04010910.csv   ... 入力データ数=31   学生数=30   学生以外=1
(2)出席者 04020910.csv   ... 入力データ数=25   学生数=25   学生以外=0
(3)出席者 04021005.csv   ... 入力データ数=24   学生数=24   学生以外=0
(4)出席者 04030915.csv   ... 入力データ数=26   学生数=26   学生以外=0

```

(4) 集計結果の表示(処理3)

ここでは、学生番号ごとに、各出席データの出席は「1」を欠席は「0」で示した表を作成します。さらに、学生番号ごとに、出席の合計数を求めます。

この結果が最終的に「集計結果.txt」ファイルに保存されることになります。

処理3：集計結果の表示

```

【 集計結果 】
  学生番号  (1)  (2)  (3)  (4)  合計
[1]9000001:  1   1   1   1   4
[2]9000002:  1   1   0   0   2
[3]9000003:  1   0   1   1   3
[4]9000004:  1   1   0   1   3
[5]9000005:  1   1   1   1   4
[6]9000006:  1   1   1   1   4
[7]9000007:  1   1   1   1   4
[8]9000008:  1   1   0   1   3
[9]9000009:  1   1   1   1   4
[10]9000010:  1   1   0   1   3
[11]9000011:  1   1   1   1   4
[12]9000012:  1   1   1   1   4
[13]9000013:  1   0   1   1   3
[14]9000014:  1   0   1   1   3
[15]9000015:  1   1   1   0   3
[16]9000016:  1   1   1   1   4
[17]9000017:  1   1   1   1   4
[18]9000018:  1   1   1   0   3
[19]9000019:  1   1   1   1   4
[20]9000020:  1   1   1   1   4
[21]9000021:  1   1   1   1   4
[22]9000022:  1   1   1   1   4
[23]9000023:  1   0   1   1   3
[24]9000024:  1   1   1   1   4
[25]9000025:  1   1   0   1   3
[26]9000026:  1   1   1   1   4
[27]9000027:  1   1   1   1   4
[28]9000028:  1   1   0   0   2
[29]9000029:  1   1   1   1   4
[30]9000030:  1   0   1   1   3

```

(5)集計結果のファイルと報告書の作成(処理4)

ここでは、集計結果を「集計結果.csv」ファイルと、一連の処理の状況を「集計報告書.txt」に書きだします。

処理 4：集計結果のファイルと報告書の作成

```
----- 集計処理終了しました。ご苦労さまでした。 -----  
-----  
----- 集計結果は、 ファイル名「集計結果.csv」 に保存されています。 ---  
----- 集計報告書は、 ファイル名「集計報告書.txt」 に保存されています。 ---  
-----
```

任意のキーを入力してください、終了します ！！！！ ■

(6)プログラムの終了

プログラムを終了するには、「任意のキーを入力してください、終了します ！！！！」
とあるように、任意のキーを押してください。この操作でプログラムは終了します。

5. 各種報告書の説明

(1) 集計結果.csv の内容

このファイルには、集計結果が保存されます。そのファイルを EXCEL で開くと以下のように表示されます。

1 行目：出席データ集計プログラムを実行した日時

3 行目：評価項目（学生番号、出席データの日付（集計分）、出席数）

4 行目以降に各学生の出席状況（出席（1）、欠席（0））

	A	B	C	D	E	F	G
1	出席データ集計結果		処理月日:2019年05月25日(9時16分29秒)				
2							
3	学生番号	4月1日	4月2日	4月2日	4月3日	出席日数	
4	9000001	1	1	1	1	4	
5	9000002	1	1	0	0	2	
6	9000003	1	0	1	1	3	
7	9000004	1	1	0	1	3	
8	9000005	1	1	1	1	4	
9	9000006	1	1	1	1	4	
10	9000007	1	1	1	1	4	
11	9000008	1	1	0	1	3	
12	9000009	1	1	1	1	4	
13	9000010	1	1	0	1	3	
14	9000011	1	1	1	1	4	
15	9000012	1	1	1	1	4	
16	9000013	1	0	1	1	3	
17	9000014	1	0	1	1	3	
18	9000015	1	1	1	0	3	
19	9000016	1	1	1	1	4	
20	9000017	1	1	1	1	4	
21	9000018	1	1	1	0	3	
22	9000019	1	1	1	1	4	
23	9000020	1	1	1	1	4	
24	9000021	1	1	1	1	4	
25	9000022	1	1	1	1	4	
26	9000023	1	0	1	1	3	
27	9000024	1	1	1	1	4	
28	9000025	1	1	0	1	3	
29	9000026	1	1	1	1	4	
30	9000027	1	1	1	1	4	
31	9000028	1	1	0	0	2	
32	9000029	1	1	1	1	4	
33	9000030	1	0	1	1	3	
34							

(備考)4月2日の項目が2つあるのは、講義開始時と終了時の出席データです。

(2) 集計報告書.txt の内容

このファイルには、出席データ集計プログラムの実行時にコマンドプロンプトに表示された内容を記録したものです。

情報処理センター出席データ集計プログラム 令和元年 5 月 Ver 1.0

処理月日 : 2019 年 05 月 25 日 (9 時 16 分 29 秒)

処理 1 : 入力ファイルの確認

(1) 出席者 04010910.csv
 (2) 出席者 04020910.csv
 (3) 出席者 04021005.csv
 (4) 出席者 04030915.csv
 【 確認終了 】 入力ファイル数は 4 です。

処理 2 : ファイルごとの入力データの確認

(1) 出席者 04010910.csv	・・・入力データ数=31	学生数=30	学生以外=1
(2) 出席者 04020910.csv	・・・入力データ数=25	学生数=25	学生以外=0
(3) 出席者 04021005.csv	・・・入力データ数=24	学生数=24	学生以外=0
(4) 出席者 04030915.csv	・・・入力データ数=26	学生数=26	学生以外=0

処理 3 : 集計結果の表示

【 集計結果 】

学生番号	(1)	(2)	(3)	(4)	合計
[1]9000001:	1	1	1	1	4
[2]9000002:	1	1	0	0	2
[3]9000003:	1	0	1	1	3
[4]9000004:	1	1	0	1	3
[5]9000005:	1	1	1	1	4

[6]9000006:	1	1	1	1	4
[7]9000007:	1	1	1	1	4
[8]9000008:	1	1	0	1	3
[9]9000009:	1	1	1	1	4
[10]9000010:	1	1	0	1	3
[11]9000011:	1	1	1	1	4
[12]9000012:	1	1	1	1	4
[13]9000013:	1	0	1	1	3
[14]9000014:	1	0	1	1	3
[15]9000015:	1	1	1	0	3
[16]9000016:	1	1	1	1	4
[17]9000017:	1	1	1	1	4
[18]9000018:	1	1	1	0	3
[19]9000019:	1	1	1	1	4
[20]9000020:	1	1	1	1	4
[21]9000021:	1	1	1	1	4
[22]9000022:	1	1	1	1	4
[23]9000023:	1	0	1	1	3
[24]9000024:	1	1	1	1	4
[25]9000025:	1	1	0	1	3
[26]9000026:	1	1	1	1	4
[27]9000027:	1	1	1	1	4
[28]9000028:	1	1	0	0	2
[29]9000029:	1	1	1	1	4
[30]9000030:	1	0	1	1	3

処理 4 : 集計結果のファイルと報告書の作成

----- 集計処理終了しました。ご苦労さまでした。 -----

----- 集計結果は、 ファイル名「集計結果.csv」 に保存されています。 ----

----- 集計報告書は、ファイル名「集計報告書.txt」 に保存されています。 ----

6. 備考

プログラム実行中に、何らかの原因で処理が中断した場合、作業用に作成した以下のフォルダーやファイルなどが、フォルダ「出席集計」の配下に残ることがあります。

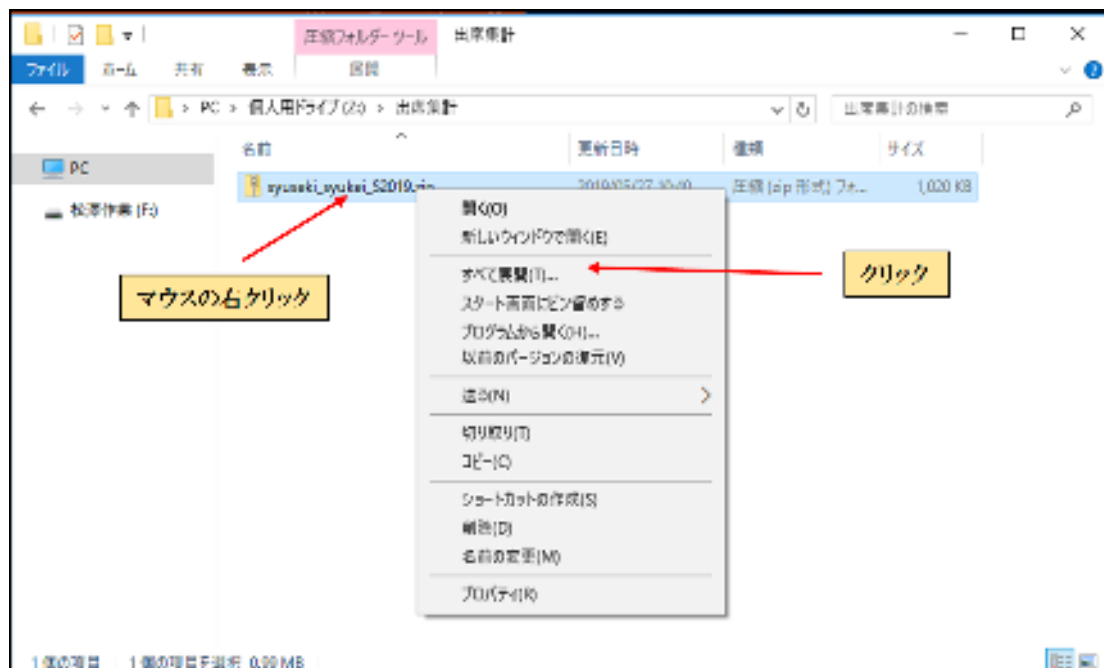
- (1) フォルダ名 WORKdata
- (2) ファイル名 WORKdataLIST0.txt と WORKdataLIST1.txt

大変申し訳ありませんが、手動で削除してください。

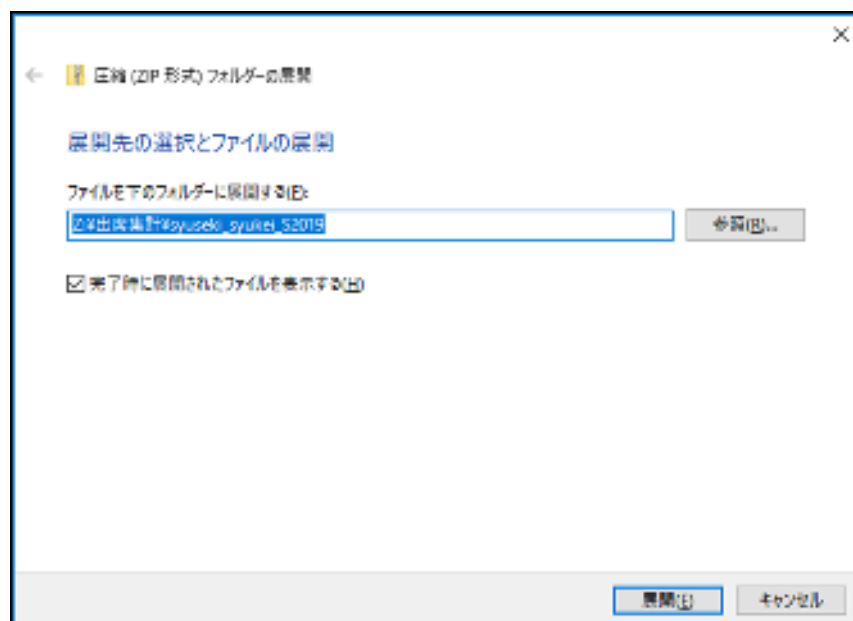
補足説明1：圧縮ファイルの解凍法について

手順1：Zドライブのフォルダ「出席集計」に移動します。

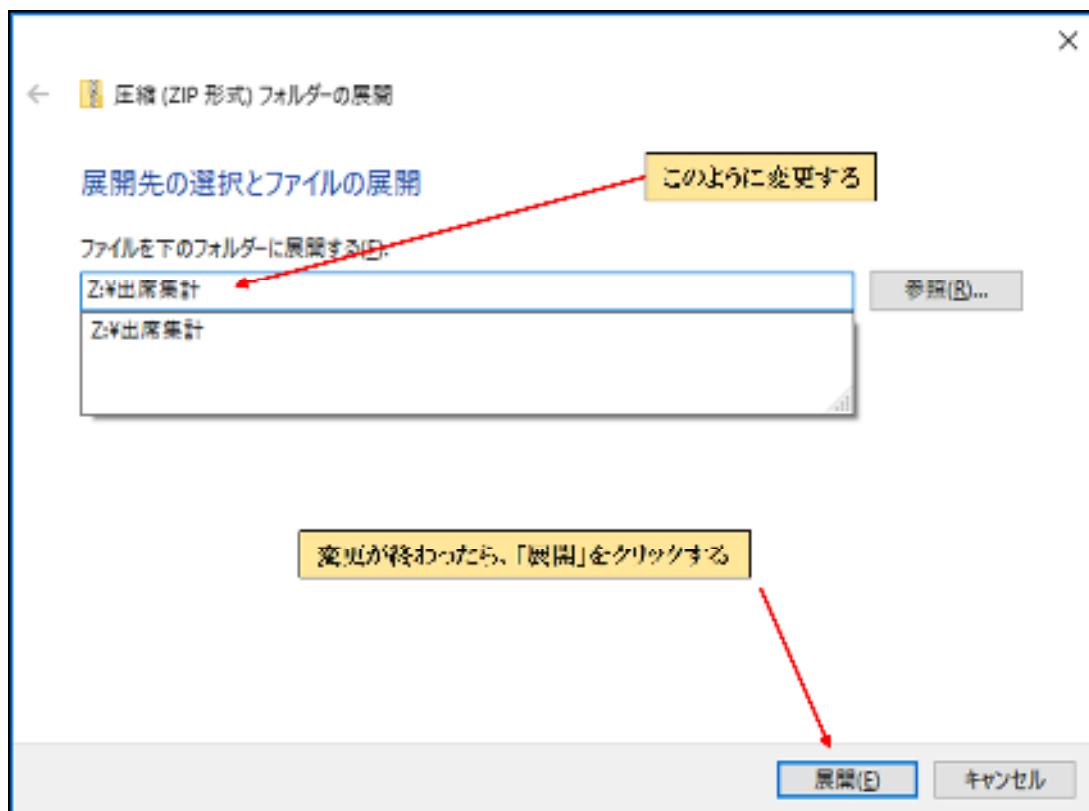
手順2：ファイル「syuseki_syukei_S2019.zip」上で、マウスで右クリックします。以下の図に示すように、メニューが表示されます。その項目のなかの、「すべて展開(T)」をクリックします。



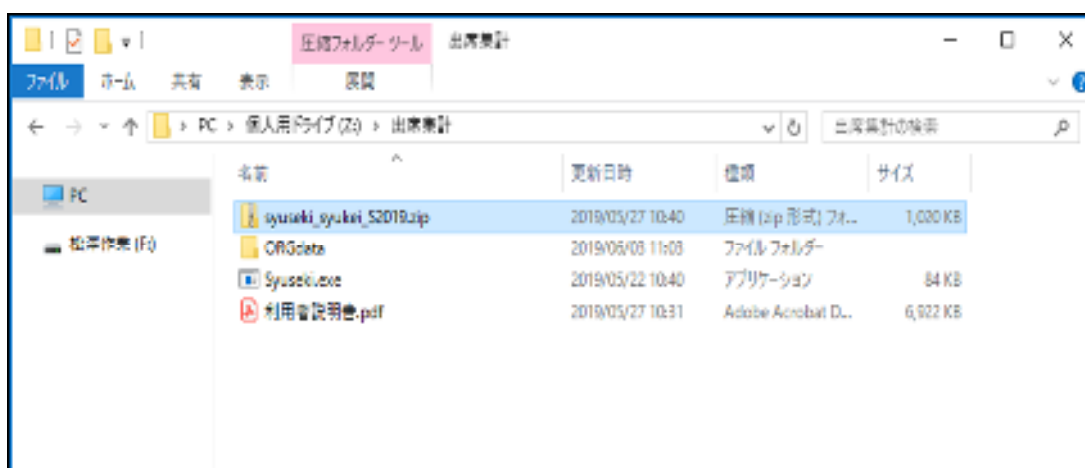
「すべて展開(T)」をクリックします。以下のような画面が表示されます。



手順3：以下の図に示すように、解凍するフォルダを「出席集計」に変更し、「展開(E)」をクリックします。なお、解凍するフォルダは自由に設定することができます。



「展開(E)」をクリックすると、以下のように解凍されます。

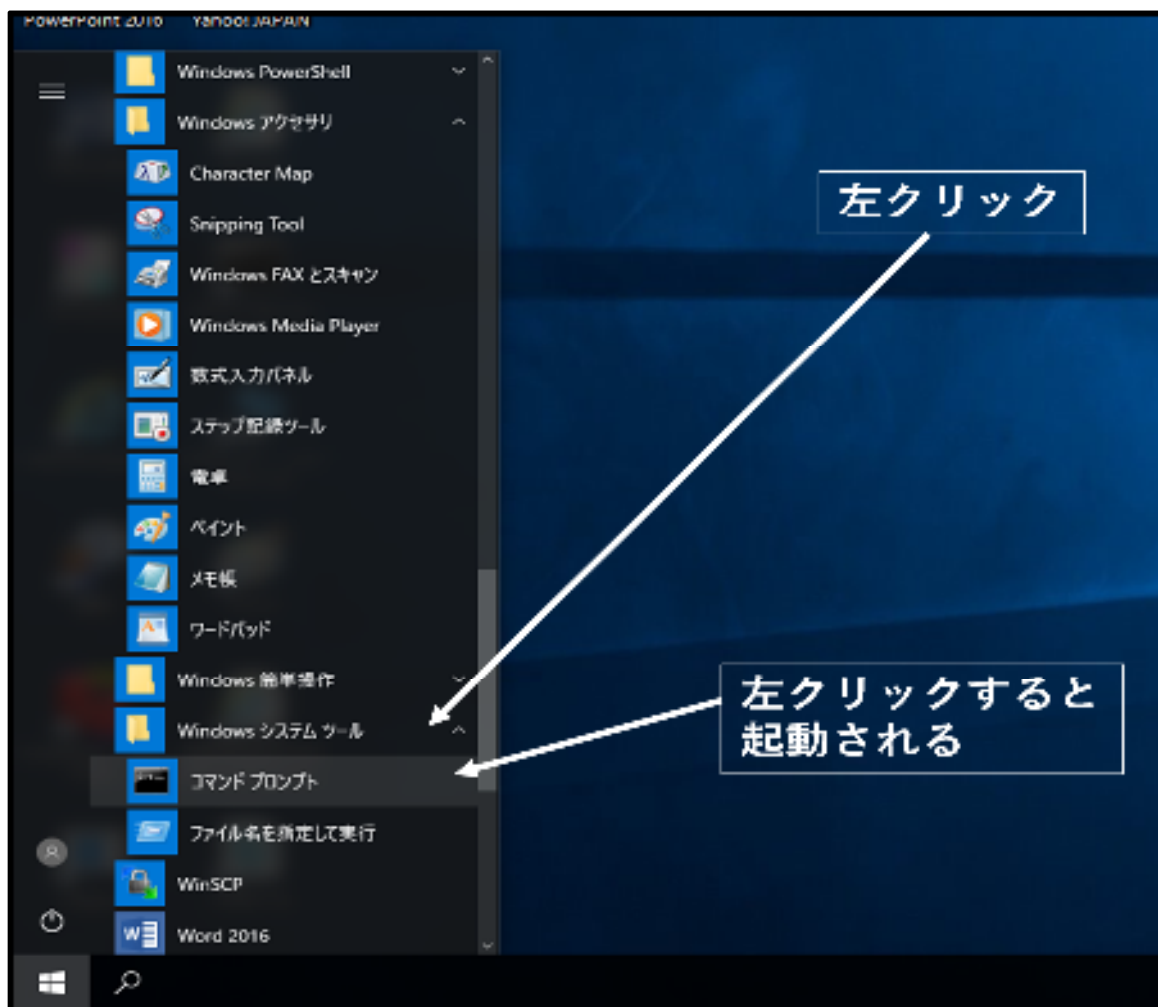


補足説明2 : コマンドプロンプトの起動法について

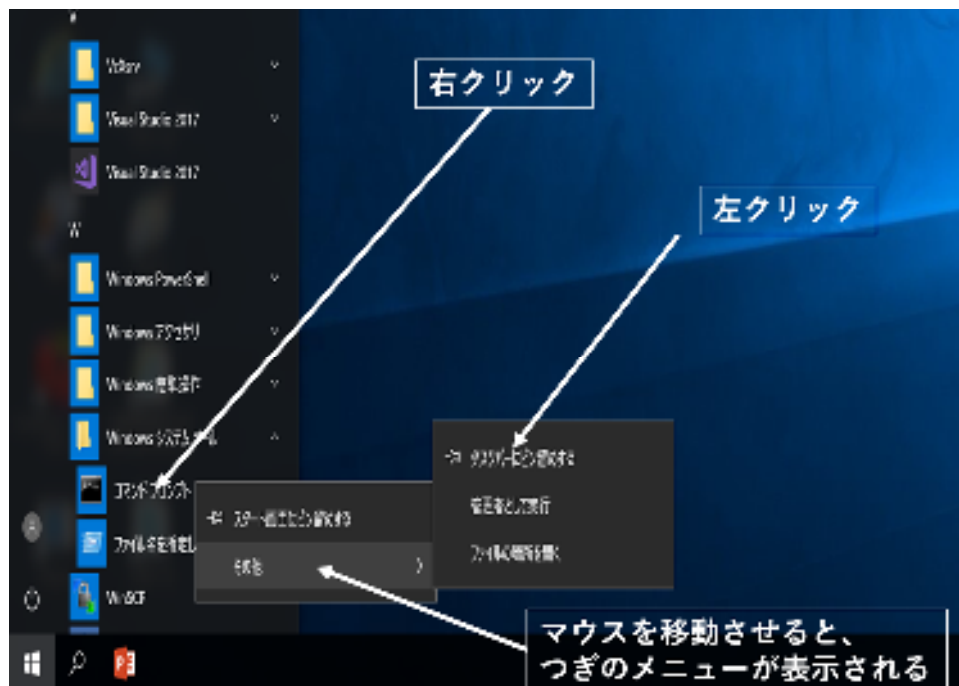
手順1 : キーボード左下の「Windows キー」を押す。

手順2 : 画面の左側に登録されているソフトウェアが以下の図のように表示される。

手順3 : 「Windows システムツール」に移動する。



手順4:「コマンドプロンプト」をタスクバーにピン留める

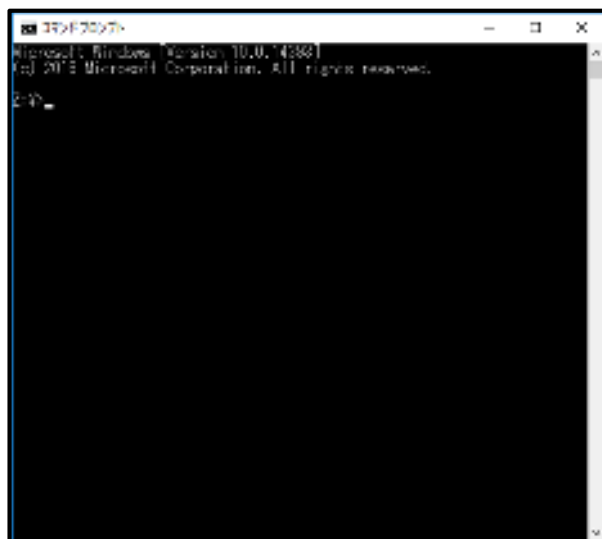


手順5: タスクバーの「コマンドプロンプト」をクリックして起動する

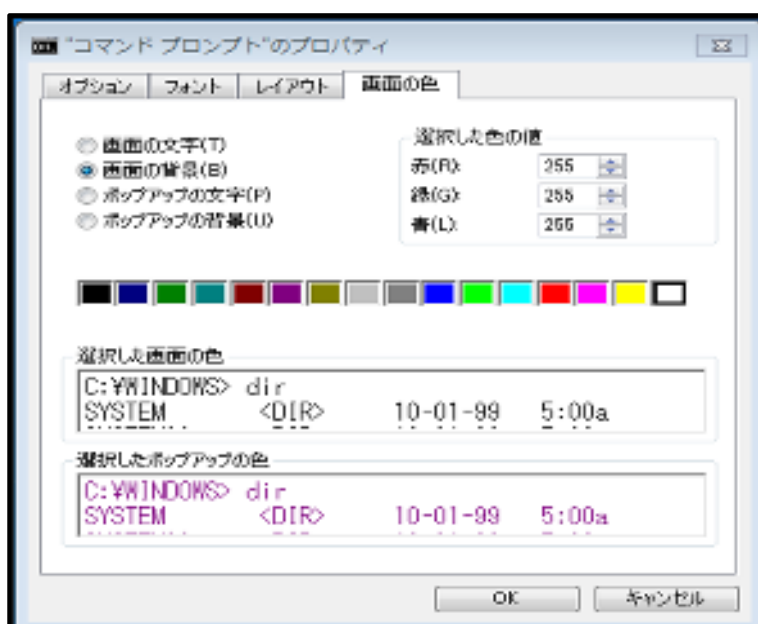


補足説明 3：コマンドプロンプト起動画面の表示色 の変更法について

手順 1：「コマンドプロンプト」が起動されると、以下の図のように、全体画面が黒色、文字が白色となります（基本設定）。

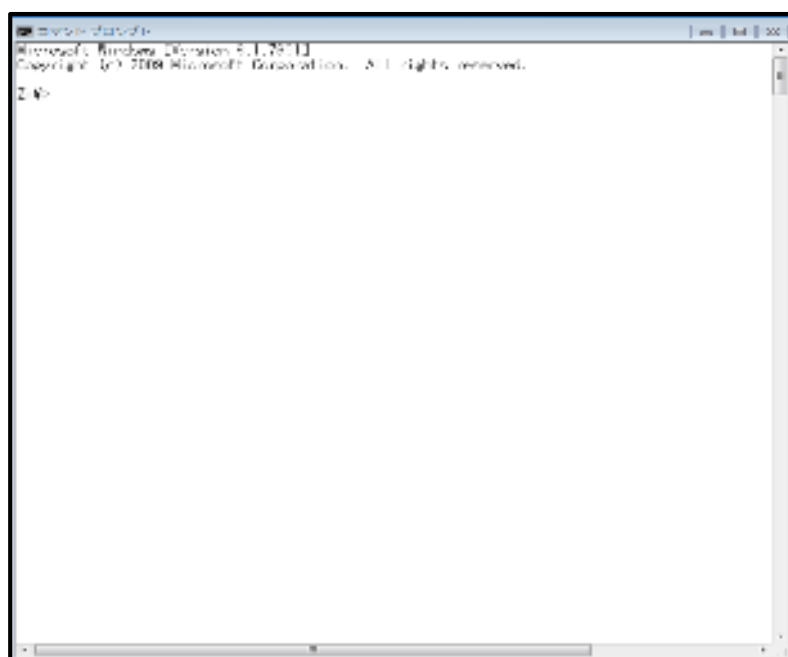


手順 2：表示色などを変更するために、上記の画面の「■コマンドプロンプト」の場所で、マウスの右ボタンを押しながら「プロパティ」を選択します。以下のような画面が表示されます。



この画面の「画面の色」を選択して、画面の背景色や画面の文字色を設定します。

その設定が終ると、以下のようにコマンドプロンプトの画面の表示色に変更されたことを確認することができます（背景を白色、文字を黒色に設定）。



以上